

# 学校関係者評価報告書

愛媛県立三島高等学校（ 2 ）

評価実施日	令和7年2月19日（水）	
委員	大西 英彦(株式会社新興代表取締役)	鎌倉 健(地域代表・歯科医師)
	宮崎 英樹(三島地区の教育を考える会顧問)	篠原 祥子(学識経験者・市教育委員)
	高橋 雅之(愛和認定こども園理事長)	續木 徹(四国中央市立三島南中学校長)
	高岡 淳(三島地区の教育を考える会会長)	篠原 晃(P T A会長)
	井原 明子(井原工業株式会社役員)	三好 敏文(保護者代表)
評価・提言等	提言等に対する改善方策等	
<p><b>1 評価アンケートの最終評価について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 分かる授業に関する評価が従来どおり高く、すばらしい。丁寧な指導を通して、生徒の学ぶ意欲も引き出せている。家庭学習時間の確保に関する工夫はどうか。</li> <li>・ 学校の丁寧な指導や相談体制に対する保護者の信頼も厚い。校則に関する一部の意見について、今後の対応はどうか。</li> <li>・ 三島高校の特色をそれほど明確に意識していない生徒も一部見られるようだが、今後の対応はどうか。</li> <li>・ 食生活に関する項目の回答は概ね良好であるが、実態をより明確に把握できる内容も検討してはどうか。</li> </ul> <p><b>2 自己評価表の最終結果について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高校のみならず小中でも全体的な学力低下の傾向が見られる。学力や意欲等にも幅がある多様な生徒が学ぶ状況となっているが、今後も丁寧な指導を続けてほしい。</li> <li>・ 身だしなみ指導については様々な面から検討が加えられているようだが、規則等の決定や変更についても、生徒たちが関わる部分をなるべく設けておいてほしい。</li> <li>・ 部活動が熱心に行われ実績も上がっているが、練習等の負担が過度なものにならないよう配慮してほしい。</li> </ul> <p><b>3 次年度に向けての提言等</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教職員の働き方改革については、授業や部活動等に加え、保護者対応なども大変であると思う。先生方がいきいきと働くことができる職場環境の整備をお願いしたい。</li> <li>・ 生徒自身が何に困っているかを正確に聞き取り、適切に対応できる方法に関して工夫をお願いしたい。</li> <li>・ 三島高校への入学を希望する中学生やその保護者に対して普通科と商業科を併設する本校の魅力や強みが、より明確に伝わるようお願いしたい。</li> <li>・ 卒業後は、地域社会のリーダーとして帰って来るような生徒を増やしてほしい。</li> <li>・ 「夢をかなえる」三島高校として、地域から期待され、中学生があこがれる学校であり続けられるよう、今後も生徒の育成に努めてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今後も、全教科で分かる授業の徹底に努める。課題等については、過度な負担にならないよう配慮するとともに、アプリ等の効果的な活用も検討する。</li> <li>・ 身だしなみ指導は回数を減らし、必要な時期に実施している。今後も家庭と連携した取組を継続する。</li> <li>・ 普通科の選択コースや商業科の新類型を設置し、学校全体で地域と深く関わる学習活動を実施している特色を明確に伝え、意識を高めていきたい。</li> <li>・ 家庭からの丁寧なサポートを今後もお願いするとともに、より正確な調査を期するよう努めていく。</li> <li>・ 学習の方法から丁寧に指導するとともに、普段から将来の進路を見据えた取組を続けられるよう意識付けを図っていく。</li> <li>・ 生徒からの意見については、生徒総会等を通じて集約し、教職員が検討した上で随時回答している。今後も生徒会等と連携し、丁寧な聴き取りに努める。</li> <li>・ 県内トップレベルにある多くの部が、日々真剣に取り組んでおり、休養日等の設定も遵守している。</li> <li>・ 庶務事務システムの導入により、業務のデジタル化と効率化を進めている。今年度から電話受取時の音声メッセージを導入し、対応等の負担軽減を図っている。</li> <li>・ 年間3回のアンケート、「WEB三島高校SOS相談窓口」を活用し、悩みに迅速に対応する体制を整えている。</li> <li>・ 普通科、商業科ともに進路希望に応じた類型を選択し専門的に学ぶことができる点に加え、「かみのまち」の特徴を生かした探究活動等を通して、地域から学び地域を深く理解する強みを明確に示していきたい。</li> <li>・ 学校における学びに加え、校外の様々なボランティア活動への参加等を通じて、地域に対する愛着と誇りが育まれるよう、充実を図っていきたい。</li> <li>・ 文武両道を実践する学校として、各活動の更なる充実を図るとともに、地域に対する働き掛け等を行う際は、望ましい連携の在り方についても検討したい。</li> </ul>	